むきばんだ花だより 4月

2018. 4. 7

今月の歩く会は、久しぶりに鷲見寛幸(大山町教育委員長)を迎えて、「大山開山１３００年祭」行事に関した大山の話題を、スライドを交えながら約３０分間、有意義な講話を受け、のち、「GW、むきばんだ日和の花カルタ」の打合せを行い植物観察に出発しました。

◎ムベ(郁子，野木瓜、奠)、アケビ科、ムベ属、

常緑蔓性木本植物、別名：トキワアケビ（常葉通草）、

○方言名：ハグベ、フユベ、イノチナガ、コッコ、等。

分布：日本の本州関東以西、台湾、中国に生育する。木は蔓性の常緑で、柄のある３～７枚の小葉からなる掌状複葉。小葉は厚い革質、深緑で艶があり。花期は４~５月初旬頃、雌雄異花で芳香があます。果実は同じ科のアケビに似ているが１０月頃に、赤紫色に熟し美味しく食べられます。アケビの様に割れないのが特徴です。○花言葉：愛嬌。○名前の由来：~不老長寿伝説＝名付け親は天智天皇？－天智天皇（中大兄王子）が近江の国へ巡行のさい、８人の子供を持つ大変元気で健康的な老夫婦に出会いました。天皇が「汝ら如何に斯く長寿ぞ。」と尋ねたところ、老夫婦は、「この地で取れる無病長寿の霊果を毎年秋に食します。」と云いながら一つの果物を差し出しました。それならば食べてみよう、と一口食べました。すると、「むべなるかな（もっともであるな。）」と、一言、天皇が云われました。この時に発された、「むべ」と言う言葉がそのまま果物の名前の由来となったのです。そして、これより毎年「ムベ」を朝廷に献上する様になったのです。１０世紀の法典集「延喜式」31巻に近江の国からムベ、マスなどが献上された記録があります。天智天皇を祭神とする大津市の近江神宮へは1040年の創祀以来、また、靖国神社にも毎年献納され続いているそうです。

★：ムベは、芽が出て幼木のときは三つ葉、その後は五つ葉、実のなる頃は七つ葉と成長に合わせて葉の数が増えていきます。陰陽道（おんようどう）では縁起が良い奇数が増えていくことから「七五三の木」と云います。子供が生まれたら記念樹として植えたり、珍しい縁起の良い長寿の品としても人気の輪が広がってるようです。○：茎や根は野木瓜（ヤモッカ）という生薬で利尿剤になります。

★撮影場所：公園駐車場横、★撮影月日：30, 4, 7

ムベ(郁、野木瓜)、アケビ科、ムベ属、
撮影場所:公園駐車場横、撮影月日:30,4,7。

ロバナタンポポ(白花蒲公英)、キク科、タンポポ属、
影場所:妻木山地区、撮影月日:30，4，7、

ムラサキケマン(紫華鬘)、ケシ科、キケマン属、

セイヨウタンポポ(西洋蒲公英)、キク科、タンポポ属、
撮影場所、妻木山地区、撮影月日、30,4,7。

ノボロギク(野襤褸菊)、キク科、キオン属、

◎ノボロギク（野襤褸菊）、キク科、キオン属

オキュウクサ（お灸草）、タイショウウクサ（大正草）、ネンジュソウ（年中草）。○花言葉：相談，一致、合流、遭遇。

○ノボロギクはヨーロッパ原産の一年生～越年生、広葉雑草で日本には明治初期に渡来しています。非常に繁殖力が強く人里近くでは、どこでも見られる帰化植物です。今では我が国に限らず、世界各国に分布していると言われています。茎は中空で柔かく肉質であり、草丈は30cm程度までで、葉は長楕円形、縁部が不規則に入れ込み茎に互生する。開花期は春先から夏場にかけてですが、一年中見られるようです。花は黄色で1cm程度の筒状花です。種子は白色の冠毛をもち、ぼろ屑のように見えるので「ボロギク」の別名もあり風邪に乗り飛散し繁殖します。★同じボロギクの名が付く野草の中には、アフリカ原産で、同じように命名された「ベニバナボロギク」・愛知県の段戸山で最初に発見され、その名が付いた北アメリカ原産の「ダンドボロギク」があります。ベニバナボロギクは、昭和20年代に帰化が確認されたが現在到る所に見られる等、この仲間は繁殖力が極めて強い植物です。

★撮影場所：妻木山地区、★撮影月日：30, 4, 7,

ガマズミ(莢迷)レンプクソウ科、ガマズミ属、
撮影場所：妻木山地区、撮影月日:30,4,7,

ブタナ(豚菜)、キク科、コウゾリナ属、
撮影場所:通暮山地区、撮影月日:30,4,7,

ヒンボンヤリ(千本槍),キク科、センボンヤリ属、別名、ムラサキタンポポ,
撮影場所:妻木山地区、撮影月日30,4,7,

スズメノヤリ(雀の槍)、イグサ科、スズメノヤリ属、
撮影場所:妻木山地区、撮影月日:30,4,7,

ミツバアケビの雌花(三つ葉木通)、アケビ科、アケビ属、

◎フユノハナワラビ（冬の花蕨）、ハナヤスリ科、ハナワラビ属。

本草は2016（平成28年）10月号「むきばんだ花だより」で紹介したが、昨冬の気象条件が原因か不明ですが胞子葉が見当たりません。何故か生育状態も悪い様で群落も少なくて心配です。採掘されたので無ければ良いのですが、花言葉の「再出発」を期待します。

イワガラミ(岩絡み)、アジサイ科、イワガラミ属、
撮影場所：妻木山地区、撮影月日：30,4,14，

オオイヌノフグリ(大犬の陰嚢)、オオバコ科、クワガタソウ属、
撮影場所：妻木山地区、撮影月日：30，4，7、

カラスノエンドウ(烏野豌豆)「ヤハスエンドウ(矢筈豌豆)」、マメ科、
ソラマメ属、撮影場所：妻木山地区、撮影月日：30，4，7、

クサイチゴ(草苺)バラ科、キイチゴ属、
撮影場所：妻木山地区、撮影月日：31,4,7,

フユノハナワラビ(冬の花蕨)：ハナヤスリ科、ハナワラビ属、
撮影場所：妻木山地区、撮影月日：30,4,7,

ウメガサソウ(梅笠草)、イチヤクソウ科、ウメガサソウ属、
撮影場所：妻木山地区、撮影月日：30,4,7,

カキドウシ(垣通し)シソ科、カキドオシ属、
撮影場所：妻木山地区、撮影月日：30,4,14,

キランソウ(金瘡小槌)シソ科、キランソウ属、
撮影場所：妻木山地区、撮影月日：30，4，7、

◎オランダミミナグサ（和蘭耳菜草）ナデシコ科、ミミナグサ属。

二年草。○名前の由来：外国産のミミナグサの意味。（※オランダミミナグサの近縁にミミナグサと云う在来種があり、このミミナグサの名前の由来は、葉の形がネズミの耳に似ていることです。）

○別名：アオミミナグサ。○花言葉：聞き上手、純粋、

★オランダミミナグサはヨーロッパ原産の帰化植物で、明治時代に渡来した（我が国への渡来時期不詳。明治末期に牧野富太郎博士が横浜で初めて存在に気付く。）とされています。今日では、すっかり帰化状態にあり、在来種のミミナグサを駆逐する勢いです。草丈は10~30cm程度。全体に白色の細毛があり、4～5月頃に先端に集散花序を付け小花（五弁花）を咲か（開いていることが少ない）せます。「枕草子」の中の若菜摘の話にミミナグサが登場します。正月七日の若菜の準備に、六日から一騒ぎしていると、見も知らない子どもが取ってきたので、清少納言が（なんという草か）と尋ねると、すぐには答えられなかったが、誰かが「耳無草（ミミナグサ）と云います」と云ったので、道理で話が聞こえないような顔をしていること、と大笑いになった。実際にはミミナグサは耳無草ではなく、耳菜草と書き、短い毛の生えた柔らかそうな葉の形をネズミの耳にたとえ、食べられる菜と言う事でその名があるが、清少納言が面白おかしく書いたものでしょう。この話には落ちがあり、暫くして別の子供が可愛らしい菊を持ってきたので清少納言が　「摘めどなほ　耳無草こそ　つれなけれ　あまたしあれば　菊（聞く）も混じれり」　と一句詠んで披露しようとしたが、相手が子供なので聞く耳は持つまいと止めたとある。古くから食べられていた植物であるが、現代では在来種のミミナグサは探すにも難しい状況にあります。一方、近年ヨーロッパ原産のオランダミミナグサがいたるところに繁茂し、繁栄を謳歌していようです。

★撮影場所：妻木山地区、★撮影月日：30, 4, 7,

オランダミミナグサ(和蘭耳菜草)、ナデシコ科、ミミナグサ属、

ハコベ(　繁縷・蘩縷)、ナデシコ科、ハコベ属、

ノゲシ(野茨子、別名、ハルノノゲシ)キク科、ノゲシ属
撮影場所：妻木山地区、撮影日時、30,4,7,

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第１土曜日午前９時３０分～正午
- 入会金　２０００円　　毎回資料代　３００円　　いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」